

非 会員限定版:JACLaP WIRE No.183 (2016年 9月 8日 発刊)

本メールは日本臨床検査専門医会の電子メール新聞JACLaP WIRE No.183です。

===== << 目次 >> =====
【新規収載項目】

25-ヒドロキシビタミンD(25-水酸化ビタミンD)

本号のJACLaP WIREは自由に転送可能です。

===== << JACLaP WIRE >> =====

平成28年8月より保険適用

D007 血液化学検査 区分E3(新項目)

25-ヒドロキシビタミンD(25-水酸化ビタミンD)

【保険点数】400点

【製品名(製造販売元)】リエゾン 25水酸化ビタミンD トータル
(協和メデックス株式会社)

【主な対象】ビタミンD欠乏性くる病・骨軟化症の患者
(骨変形や低身長, 痙攣等の症状を認める疾患)

【主な測定目的】血清中の25-水酸化ビタミンD濃度の測定
(ビタミンD欠乏症の診断の補助)

【測定方法】化学発光免疫測定法(CLIA法)

【検体】血清

【有用性】25-水酸化ビタミンD濃度を測定することで, ビタミンD欠乏の有無を評価し,
類似疾患との鑑別診断ならびに適切な治療を行うことができる。

【説明】骨およびミネラル代謝におけるビタミンDの役割に関しては周知であり, 我が国
においても保険適用のある関連検査項目として1,25-水酸化ビタミンD3, カルシウム,
リン, 副甲状腺ホルモン(PTH), 骨型アルカリフォスファターゼなどがあつた。

しかし, これらをもってしても, ビタミンD欠乏の有無は的確に診断できず, 関連学会
からは, 長らく25-水酸化ビタミンD測定の保険適用が望まれていた。例えば, 厚生労働
省難治性疾患克服研究事業ホルモン受容機構異常に関する調査研究班, 日本骨代謝学会,
日本内分泌学会による「ビタミンD不足・欠乏の判定指針」(案)に示されているように
血清25-水酸化ビタミンD低値に反映されるビタミンD不足・欠乏状態が, 小児における
くる病, 成人における骨折リスクの上昇, さらに低カルシウム血症をはじめとした種々の
病態をもたらしていることが明らかになっている。したがって, ビタミンD不足・欠乏状
態が疑われる患者において, 25-水酸化ビタミンDを測定することにより, 的確にその病態
を把握することができるようになるとともに, 適切な医療の提供が可能になると考えられ
る。

本試薬は, 測定機器として全自動化学発光免疫測定装置リエゾンXLを使用するが, 血清
25-水酸化ビタミンD濃度を迅速かつ高精度に測定することが可能である。小児における
ビタミンD欠乏症の診断補助と治療効果の判定, 成人における骨粗鬆症の補助診断として
極めて有用性の高い検査試薬と考えられる。

なお, 25-水酸化ビタミンDは, CLIA法により, ビタミンD欠乏性くる病・骨軟化症の診
断時またはそれらの疾患に対する治療中に算定できる。ただし, 診断時においては1回,
その後は3月に1回を限度として算定する。

【製品情報のホームページ】

リエゾン 25水酸化ビタミンD トータル(協和メデックス株式会社)

http://www.kyowamx.co.jp/news_release/20160801.html

(文責: 東京大学 矢富 裕)

各製品情報のホームページは仕様変更などによりリンク切れとなることも
ありますのでその際は御容赦下さい。

日本臨床検査専門医会 事務局(水・土日祝祭日は休業日)

TEL 03-3864-0804

Fax 03-5823-4110

E-mail:senmon-i@jaclp.org

JACLaP WIRE No.183 (2016年 9月 8日)

☆発行: 日本臨床検査専門医会[情報・出版委員会]

☆編集:JACLaP WIRE編集室 編集主幹:盛田 俊介
東邦大学医療センター大森病院 臨床検査部
TEL:03-3762-4151(内線3432)・FAX:03-3762-9730

会員の皆様からの寄稿をお待ちしております !

メーリングリスト配信先の変更には
1.氏名、2.現行登録アドレスと3.変更希望メールアドレスを添えて
senmon-i@jaclp.orgまで「配信先の変更希望」としてお送り下さい。